

NEWS

THE KAGAWA MUSEUM

香川県立ミュージアム ニュース

2024 秋号

VOL.62



CONTENTS

特集 特別展 美術を探求 ギモンにせまる

展示室だより 新収蔵品展

近代能楽がつむぐ縁 一松平頼寿と中野武堂

源平合戦を描く

アート・コレクション 金工にみる花鳥風月

ミュージアムガイド vol.50 博物館の消火設備

調査研究ノート vol.48 神野神社湯立神楽の復興と映像記録の活用

れきみんだより 船上のシェフ 一船員の食生活を支えた司厨長に聞く

吉田博「牛」 明治43年(1910)

高松松平家歴史資料(当館保管)

吉田博は明治43年11月に小豆島を取材で訪れ、本作では土庄町の余島を舞台に牛を描いている。古くより労働力として重用された牛は、明治に入ると次第に畜産を目的として飼育されるようになった。小豆島でも牛の飼育が盛んになり、販路が拡大していった。作品中には和牛のほか輸入されたホルスタイン種の姿も描かれる。

特別展

美術を探求 ギモンにせまる

知るともっと楽しくなるのが、美術の魅力。

本展では当館収蔵の20世紀美術作品について、「ギモン」を切り口に紹介します。

作品のなぜ?なに?

作品を目の前にしたとき、「何で作っている?」、「作者は誰でどんな人?」、「作品は何を表現している?」など、大きなものから小さなものまで様々なギモンが浮かんできます。ギモンを持ち、探求することで、作品についてより詳しく知ったり、今までとは違う一面を見つけたりすることができます。同じ作品を見ていても、人によって浮かび上がるギモンは異なりますが、今回は本展の担当学芸員が作品を見た時に思い浮かべた素材・技法・題材に関する素朴なギモンをきっかけに作品を紹介します。このギモンが作品鑑賞のヒントになれば幸いです。



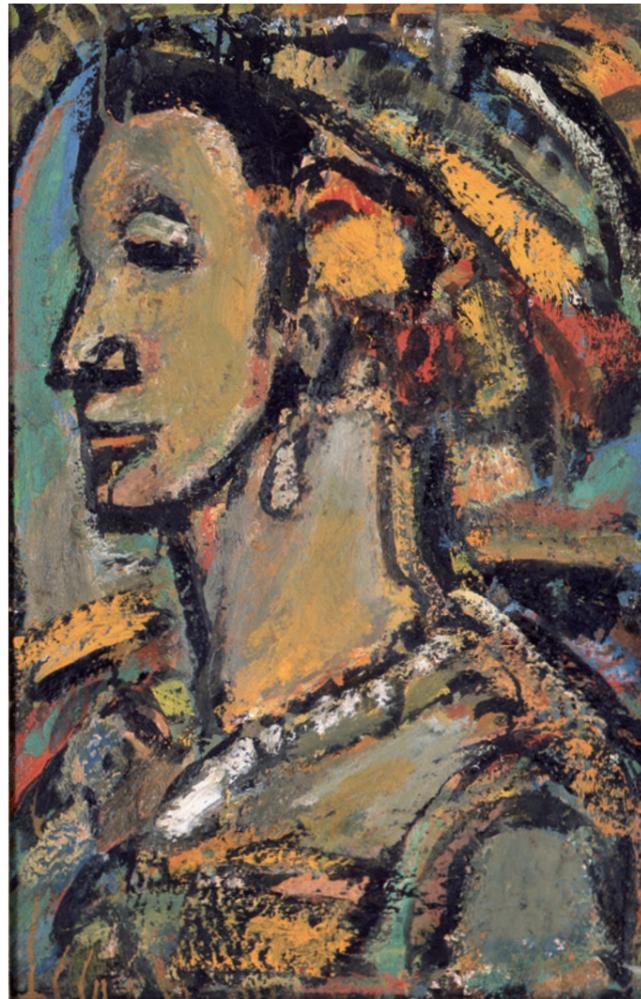
①

素材のギモン

作品は、多くの素材によって構成され、一見ただけでは全く分からないものもあります。素材によって表現できることや鑑賞者に与える印象は変わってきます。

作品をじっくり観察してみましょう。絵の表面に注目して作品を見ると、筆の跡や絵の具のたまりなどのほか、ざらざら、でこぼこといった様々な表情が見えてきます。藤沢章(1923-1998)「シャリー(シーワ・オアシス)」(①)では絵の具に砂を混ぜることで土壁のような質感となり、乾燥した雰囲気感を漂わせます。一方、ジョルジュ・ルオー(1871-1958)「モニック」(②)では絵の具を大胆に盛り上げることでレリーフのような立体感が生まれています。さらに、「何に描いているのか?」という視点で見ると、素材は麻や絹といった布、紙、ビニールなど様々です。素材によって絵の具のしみ方や筆遣いなどは異なります。展示では、絵を見くらべながら素材による様々な表現を紹介します。

また、工芸作品から、素材としての竹にも注目します(③)。



②



③

技法のギモン

作品を制作するにあたっては様々な技法が用いられます。技術の発展や流行、作家の研究によって多種多様な技法が登場しましたが、技法を知ると作品の新たな一面が見えてきます。沖縄文化の研究者で染色家でもある鎌倉芳太郎(1898-1983)は、沖縄の紅型研究からその技法に基づいた作品を制作しました。紅型は型紙を使用して図柄を染める技法で、図柄の構成、染め方などに工夫が多くあります。「型絵段染山水文上布長着」(④)では、綿密に構成された山の図様が連続と続き、その切れ目が分からないほどです。「どうやって模様を繰り返しているのか?」というギモンから、美術におけるパターンについて紹介します。

また、凸版・凹版など版画の技法にも注目し、銅版画や木版画の作品も紹介します。



④

題材のギモン

「題材は何か?」は作品を見るときに重要な視点です。歴史や物語の象徴的なシーンや人物、美しい風景のほか、身近な場面や物も作品の題材となってきました。作品に表現されたものが何であるかということに加えて、表現されたものの時代感や場所、作者との関係性などを知ることで作品の世界観をより楽しむことができます。

「ユーターピー」(⑤)は「馬の勇八」とも呼ばれた池田勇八(1886-1963)の彫刻作品で、ユーターピーという名前のサラブレッドが題材になっています。幼少期より馬に親しんだ池田勇八にとって馬がどのような存在だったのか、作品を介して考えます。

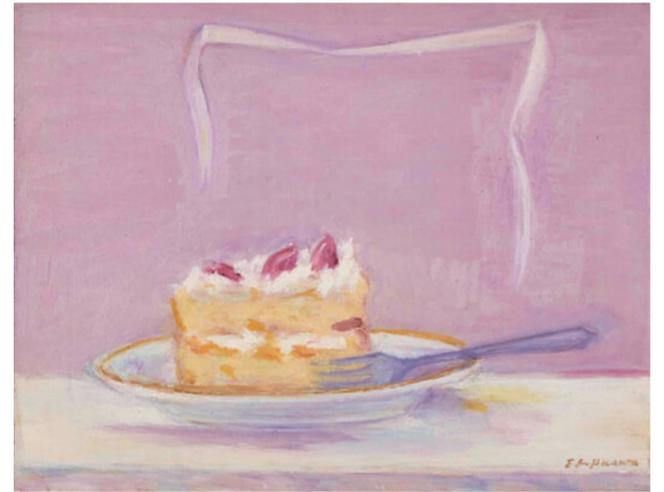
そして、藤川栄子(1900-1983)はショートケーキを題材にした作品を描きました(⑥)。「なぜこの題材を描いたのか?」、ショートケーキの歴史とあわせて作品を紹介します。

このほか、香川県を舞台にした作品なども展示し、作者と題材との関係性、時代背景などに触れながら作品について探求します。

- ①藤沢章「シャリー(シーワ・オアシス)」平成8年(1996) ②ジョルジュ・ルオー「モニック」1953~56年 ③太田備「監胎奇器盛器「熱帯魚」」昭和61年(1986)
④鎌倉芳太郎「型絵段染山水文上布長着」昭和50年(1975) ⑤池田勇八「ユーターピー」昭和5年(1930)頃 ⑥藤川栄子「シュークリームのある静物」昭和時代(20世紀後半)
③・④撮影:高橋章



⑤



⑥

美術を探求

20世紀の美術作品を中心としたコレクション展は10年ぶりの開催です。本展では、猪熊弦一郎、太田備、田中岑など香川ゆかりの作家から、ピカソ、ルオーなどの海外の作家まで、絵画や版画、彫刻、工芸といった様々なジャンルの作品50点を展示します。素朴なギモンを鑑賞のきっかけにして、美術資料や歴史・民俗資料も交えながら作品について探っていきます。いろいろな作品を同じギモンを通して見たり、ひとつの作品を様々な視点でひも解いたりすることで、作品の新たな一面や見方を発見する機会にいただけたらと思います。一緒に美術を探求してみませんか。

(専門学芸員 鹿間 里奈)

特別展 | 美術を探求 ギモンにせまる

会 期：9月14日(土)~11月10日(日)
会 場：特別展示室、常設展示室4・5
開館時間：9:00~17:00(入館は16:30まで)
休 館 日：月曜日(月曜日が休日の場合は翌火曜日)
観 覧 料：500円 前売・団体(20名以上)400円
※高校生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

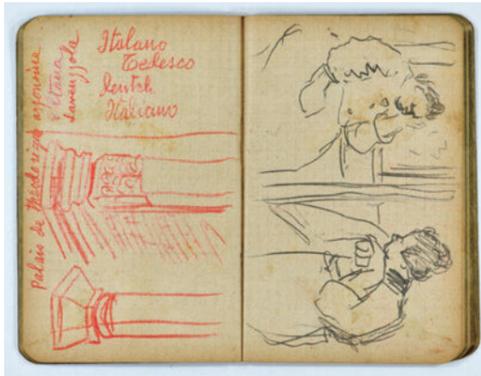
常設展示室4・5
新収蔵品展

8/8(木)~9/1(日)

今回の新収蔵品展では、未公開のものを中心に、令和3~5年度に収蔵した資料・作品を紹介しします。時代は江戸時代から現代まで幅広く、古文書などの歴史資料、生活道具などの民俗資料、絵画などの美術作品、作家のアイデアスケッチなどの美術資料など、分野も多岐にわたります。

あなたのお気に入りの一品を見つけてください。

(主任専門学芸員 高木 敬子)



小林萬吾 「留学手帳」

常設展示室1
源平合戦を描く

11/1(金)~12/22(日)

平安時代末期、讃岐も合戦の舞台となった源氏と平氏の争いは『平家物語』、『源平盛衰記』などの軍記物語で語られ、多くの絵画に描かれてきました。本展では収蔵品から、那須与一の扇的の逸話など、軍記物語に語られる屋島合戦のエピソードを華々しく描いた屏風や、豪壮な武者の姿を描いた迫力満点の錦絵などを紹介しします。

(学芸員 藤井 俊輔)



「源平合戦図屏風(藤戸)」(部分) 江戸時代

常設展示室1
近代能楽がつむぐ縁
—松平頼寿と中野武宮—

9/10(火)~10/27(日)



あたら「安宅」で弁慶を演じる松平頼寿

江戸時代、高松藩の能は喜多流でしたが、12代当主頼寿(1874~1944)は宝生流の謡と能を嗜みました。熱心に宝生流の謡をしていた松平家の相談役・中野武宮(1848~1918)の影響もあったとされます。本展では、頼寿所用の近代能面などの道具類を紹介するとともに、金沢能楽美術館の協力のもと、中野家伝来の能楽資料を特別公開しします。

(主任専門学芸員 三好 賢子)

常設展示室4・5
アート・コレクション
金工にみる花鳥風月

11/19(火)~12/22(日)

収蔵品から金工作品を紹介しします。金属工芸界に大きな影響を与えた北原千鹿(1887~1951)、草花や蝶を繊細に表現した鴨政雄(1906~2000)、金工の可能性を追求し続ける大須賀選(1931~)など、香川県出身の金工家たちが表現する華麗でモダンな金工作品をお楽しみください。

(専門職員 翠 さやか)



北原千鹿「金彩遊禽水指」 昭和15年(1940)頃

ミュージアムガイド vol.50
博物館の消火設備

博物館は、収蔵した資料を次の世代へ伝えていくため、適切な設備を備え、日々、職員が目を配り管理しています。今回は、そのための設備のうち、消火設備について紹介しします。

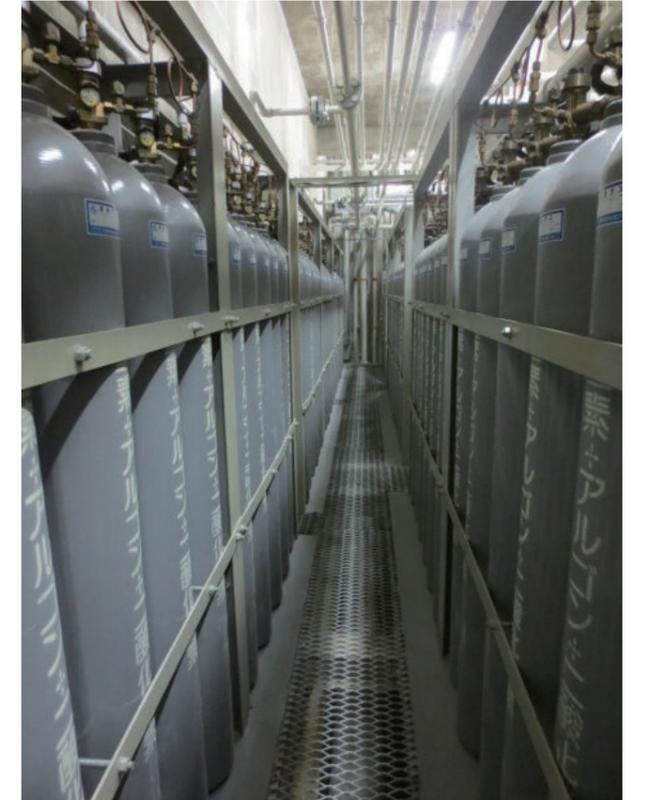
一般的に、消火というと、スプリンクラーなどの水消火や、消火器などの粉末消火を思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、博物館で火災が発生した際、水や粉末で消火すると、たとえ焼失を免れたとしても、資料や作品が水浸しになったり、粉末で汚れたりして、復旧が難しくなります。そのような二次被害を避けるため、博物館施設では、ガス系消火設備を備えているところが多くあります。ガス消火の場合、ガスで資料や作品が汚損されることがなく、施設の復旧も比較的速やかに行うことができます。

当館の収蔵庫・展示室では、イナージェンガス消火システムを備えています。イナージェンガスとは、窒素、アルゴン、二酸化炭素の混合ガスで、室内の酸素濃度を低下させることにより消火しします。

ガス系消火設備のガス容器については、設置後、一定年数を経過するまでの間に容器弁の安全性を点検する必要があります。平成11年(1999)に香川県歴史博物館として開館した当館も、その点検を行う時期となり、今回、令和5、6年度の2カ年にわたり、新しいガス容器に交換することとなりました。当館の収蔵庫・展示室消火のために備えているイナージェンガス容器は125本(その他、起動用二酸化炭素容器20本)にのぼるため、2カ年にわたって国費補助事業として、文化庁の指導のもと実施しています。

県民のみなさまにとっても大切な博物館の資料・作品を守るため、適切な設備更新にも取り組んでいます。

(主任専門学芸員 高木 敬子)



ガスボンベ室に並ぶイナージェンガス容器

行ってきま〜す 当館収蔵品の館外展示情報です。



巻七(部分)

重要文化財
「法華経」
8巻のうち、巻三、巻四、巻五、巻七

中之島香雪美術館 「法華経絵巻と千年の祈り」
10月5日(土)~11月24日(日)



「写生画帖」菜蔬(部分)

香川県指定有形文化財
「高松松平家博物図譜」(当館保管)のうち「衆芳画譜」菜草第二、菜草第三、「写生画帖」菜蔬
穆公遺事(瀬戸内海歴史民俗資料館蔵)

根津美術館 「百草蒔絵葉筆筒と飯塚桃葉」
11月2日(土)~12月8日(日)

神野神社湯立神楽の再開と映像記録の活用



無形民俗文化財の映像記録

当館の前身である香川県歴史博物館は、開館準備中の平成6～10年(1994～1998)に、民俗調査とともに無形民俗文化財の映像記録事業を実施しました。国・県指定の無形民俗文化財を中心に撮影された映像の一部は、当館3階にあるビデオライブラリーで見ることができます。ここでは、丸亀市郡家町にある神野神社(神野神社正八幡宮)の湯立神楽の映像記録が、行事の再開に活用された事例を紹介しします。

湯立神楽の中断と復興

香川県では、毎年10月頃の秋祭りで、3か所の神社で湯立神楽が行われます。まんのう町長尾の三島神社、丸亀市垂水町の垂水神社、そして神野神社です。県内の湯立神楽は、木材や鉄パイプでユダナ(湯棚)と呼ばれる構造物を境内に組み、その上に祭壇を設け、湯釜を設えるのが特徴です。神事はこのユダナの上に御神体を移して行われ、神楽はユダナの下で披露されます。神事の終盤、薪に火が付けられ、温まった湯に御神体などが入れられます。その後、釜に笹を入れた上から宮司が入り、頭から籠をかぶせられるという珍しい作法が見られます【図1】。



図1 湯釜に入る宮司(平成6年の映像記録より)

神野神社湯立神楽は文化財指定を受けていませんでしたが、平成6年が、33年に1度行われる、御神体の御衣替神事のタイミングと重なったため、記録の対象となりました(※)。この事業は、可能な限り記録を「残す」ことに重点を置く方針をとっていたため、祭礼や芸能の主要場面だけでなく、準備や相談、終了後の直会まで、行事の全体が撮影されました。それらも含めて祭りであるという民俗調査の考え方によるものです。

撮影から28年が過ぎようとしていた令和4年(2022)8月、神野神社の総代長・副総代長が当館を訪れました。令和元年を最後に、新型コロナウイルス感染症の影響で行事が中断していた令和3年に、宮司が他界されたということでした。ユダナの上での作法はその宮司しか知らなかったため、再開のために映

像記録を参考にしたいというご相談でした。映像と一緒に確認したのち、湯立神楽部分の編集前のデータを提供しました。

そして、令和5年10月28日に神野神社で4年ぶりに湯立神楽が行われ、私も調査のため見学させていただきました【図2】。総代長によれば、映像から行事次第を書き起こすのが大変で、宮司が唱えている祝詞までは聞き取ることができなかったということでした。また、従来はユダナの祭壇にお供え物を一つ一つ運んでいたのを、再開を機に最初に用意しておくよう簡略化したそうです。



図2 神野神社湯立神楽のユダナ(令和5年撮影)

映像記録の活用に向けて

今回の事例では、行事の流れ全体が映像記録に収められていたため、不十分な点はあったものの再開のために活用されたといえます。さらに、そのままを再現するのではなく、状況にあわせて簡略化したことも調査で確認することができました。

しかし、地域でこの映像記録事業を記憶している方は着実に減ってきており、今後は映像記録が存在していることの発信も重要となってきます。近年では、映像記録をデジタルアーカイブとしてインターネット上に公開する施設も増えてきています。今後、様々な公開方法を模索することで、地元への還元にとどまらない活用の道が見出されるかもしれません。

(専門学芸員 黛 友明)

(※) 国立民族学博物館も昭和48年(1973)に神野神社湯立神楽を撮影しており、ビデオテープブースなどで映像を視聴することができる。

参考文献

田井静明「平成八・九年度の民俗調査の概要」『歴史博物館整備に伴う資料調査概報—平成8年度・平成9年度—』香川県教育委員会、1999年

船上のシェフ

—船員の食生活を支えた司厨長に聞く

瀬戸内海歴史民俗資料館では地域の伝統文化・技術等の調査記録・発信事業として、香川県内の有人島を対象に聞き取り調査等を行っています。これらの成果を踏まえ、瀬戸内ギャラリー第13回企画展では、船乗りの島として知られる栗島(三豊市)出身の元外航船員とその家族にまつわる記憶や思い出について取り上げています。その中から、高度経済成長期から平成初期にかけて船に乗り、タンカー船の司厨長を務められた山北光夫さん(77)からお聞きしたエピソードを紹介します。

食材管理から和洋中、そしてデザートまで 何でもござれの司厨長

船の乗組員は担当職務により操船と荷役を担当する甲板部、エンジンなど機械類の保守を行う機関部、船上で書類作成を担う事務部などに分かれます。司厨とは炊事を担当する人を指す言葉で、事務部に含まれる司厨部は、司厨長を筆頭に航海中の食材管理やメニュー作成、1日3食の調理など船上の食に関わる業務を担当します。

定期的に仕入れを行う陸上の飲食店とは異なり、多くの船の場合、食材の仕入れは出港時の1回のみ。適切な食材管理と限られた食材でさまざまな種類の料理を提供することが求められます。

山北さんは、「出港して最初の仕事は、白菜を新聞紙で包んだり、大根を米袋に入れたりするなど、食材を長持ちさせるための作業で、時間がかかり大変だった。人参や玉ねぎなど保存がきく野菜は、航海中に絶対に切らさないように管理していた」と、船上での調理の工夫や管理の難しさについて語っています。

半年以上航海生活が続く船乗りにとって、食事は健康を支えるとともに楽しみのひとつです。司厨部員は、和洋中のいずれの料理にも通じ、飽きがこないおいしい料理を船乗りたちに提供し、航海生活に潤いを与えました。下船期間中は書籍などを読み研究を重ね、料理のレパートリーを増やすなど研鑽に励みます。山北さんもパンやケーキ、アイスクリームなどの作り方を学び乗組員たちに振舞ったほか、バイキング形式を取り入れ食事を提供しやすくするなど、工夫を重ねる日々だったそうです。



山北さんが作った特製正月料理 平成9年(1997)



腕の見せどころだった正月料理と おいしさの秘訣

長い航海では船上で正月を迎えることもありましたが、司厨部にとって正月料理は腕の見せどころであり、大変な仕事でもありました。年に一度の正月料理に胸を躍らせる船乗りのため、司厨部員は徹夜で料理を作ったそうです。山北さんが司厨長として最後に乗った船で作った特製正月料理の写真をみると、その豪勢さが伝わってきます。

ちなみに山北さんの得意料理はドライカレー。「他の人や本から学んだことだけでなく、自分の経験や勘に基づいたアレンジを加えるとさらにおいしくなる」と秘訣を語ります。船上で大人気だったドライカレーは、司厨長を引退した後、故郷栗島で経営していた民宿やイベント等でも振舞われました。ドライカレーのレシピには、山北さんが船上で培った料理の哲学というスパイスがたくさん詰まっています。

船を下り退職した後、島の担い手として活躍された元船員の方も高齢になり、船乗りとしての経験を語れる方も少なくなってきました。今後とも聞き取り調査等を進め、島々の歩みを記録し、伝えていく活動を行っていきたく考えています。

(瀬戸内海歴史民俗資料館 専門職員 井奥 亮太)

展覧会情報

瀬戸内ギャラリー第13回企画展

栗島から世界へ

—船乗りの海外土産—

7月6日(土)～9月1日(日)

関連行事

島しょ部伝承講座

無料・要申込

「栗島の船乗りたちの航跡

—元外航船員とその家族に聞く—

今回取上げた山北さんほか2名の元船員と家族の方をお招きし、インタビュー形式でお話をお聞きます。

日時：8月24日(土)13:30～15:00

申込方法：電話、「香川県電子申請・届出システム」

INFORMATION [2024.9-2024.11]

SCHEDULE

	歴史展示室	常設展示室 1	常設展示室 2	常設展示室 3	常設展示室 4・5	特別展示室
9月	かがわ今昔 香川の歴史と文化	9/10 近代能楽が つむぐ縁	9/10 イサム・ ノグチIII 生誕120年記念	弘法大師空海の 生涯と事績	9/14 美術を探求 ギモンにせまる	9/14
10月		10/27				
11月		11/1				
臨時休館 9/2～9/9						
臨時休館 11/11～11/18						
12月		源平合戦を 描く 12/22	12/1 12/3 イサム・ ノグチIV		11/19 金工にみる 花鳥風月 12/22	
休館 12/23～1/1						

特別展「美術を探求 ギモンにせまる」関連イベント

鑑賞会 無料(要観覧券)・要事前申込

みるってなんだろう?～見えない・見えにくい人と共に行う美術鑑賞会

見える人と見えない・見えにくい人みんなで、対話を楽しみながら作品を鑑賞します。

日時：9月29日(日)10:00～12:00

アドバイザー：日野陽子氏(京都教育大学教育学部准教授)

進行役：朝倉成樹氏(香川県立視覚支援学校教諭)

会場：地下1階研究室、特別展示室、常設展示室4・5

定員：15名(中学生以上)※応募者多数の場合は抽選

申込期間：8月29日(木)～9月19日(木)必着

ワークショップ 有料・申込不要

ミュージアム秋祭り

素材の質感を楽しむコラージュ、紙などで作る自分だけのケーキなど展示作品にちなんだワークショップなどを開催。ミュージアムで芸術の秋を楽しもう。

日時：10月13日(日)、14日(月・祝)

各日10:00～12:00、13:00～16:00

会場：2階西口ピー

参加料：100円

学芸講座 無料・要事前申込

藤川栄子が描いたスイーツ

香川県出身の洋画家・藤川栄子が描いたショートケーキについて、藤川が生きた時代の洋菓子などにも触れながら紹介します。

日時：9月21日(土)13:30～15:00

会場：地下1階研修室

定員：72名(先着順)

講師：鹿間里奈(当館専門学芸員)

申込期間：8月21日(水)～、定員になり次第終了

11月のイベント

学芸講座 無料・要事前申込

常設展示室1「源平合戦を描く」関連

源平合戦はどう描かれたか

源平合戦のエピソードがどのように描かれたのか、『平家物語』などと比較しながら展示作品を紹介します。

日時：11月23日(土・祝) 13:30～15:00

会場：地下1階研修室

定員：72名(先着順)

講師：藤井俊輔(当館学芸員)

申込期間：10月23日(水)～、定員になり次第終了

常設展示室2「アート・コレクション 生誕120年記念 イサム・ノグチ」関連 イサム・ノグチの創作にふれる

11月17日に生誕120年を迎えるイサム・ノグチ。その生涯と作品をふりかえります。

日時：11月9日(土) 13:30～15:00

会場：地下1階研修室

定員：72名(先着順)

講師：窪美西嘉子(当館主任専門学芸員)

申込期間：10月9日(水)～、定員になり次第終了

瀬戸内海歴史民俗資料館のイベント 無料・要事前申込

1. 瀬戸内海国立公園90周年記念事業

れきみで瀬戸内海を楽しむ見学ツアー

さまざまな分野の講師をお招きし、毎回視点をえて開催する全6回のツアー。瀬戸内海を楽しみながら学びます。

日時：第5回 10月26日(土)「山装う五色台散策」

水沼佑太氏(OMUSUBI HIKE登山ガイド)

第6回 11月9日(土)「下笠居の漁業」

西谷定憲氏(下笠居漁業協同組合職員)

各回10:00～11:30

会場：瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室、展示室、展望台など

定員：各回25名(先着順)

申込期間：9月5日(木)～、定員になり次第終了

送迎：JR高松駅 ⇄ 瀬戸内海歴史民俗資料館間において、バス等による送迎(無料)を実施(要事前申込)

送迎申込期間：第5回：9月5日(木)～9月26日(木)

第6回：9月5日(木)～10月9日(水) ※定員になり次第終了

2. れきみ講座「ギザギザ農具たちのメッセージ

～香川のセンバコギ・足踏み脱穀機調査より～

従来の常識を打ち破った画期的な農具であるセンバコギと足踏み脱穀機。

これらが生んだ技術革新とその意義を紹介します。

日時：11月2日(土) 10:00～11:30

会場：瀬戸内海歴史民俗資料館 研修室

定員：25名(先着順)

講師：長井博志(瀬戸内海歴史民俗資料館主任文化財専門員)

申込期間：10月2日(水)～定員になり次第終了

■イベントの申込方法

電話、「香川県電子申請・届出システム」(*)を利用したインターネットから。

申込の際に、氏名、電話番号、イベント名をお伝えください。

申込先:瀬戸内海歴史民俗資料館 TEL.087-881-4707



カフェット ミュゼ

くつろぎのひとときに、カフェット ミュゼをご利用ください。「美術を探求」展特別メニューもご用意しております。

営業時間:9:00～17:00(オーダーストップ 16:30)



ミュージアムショップ

1階ミュージアムショップでは、当館オリジナルグッズも販売しております。

営業時間:9:00～17:00

香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002(代表) FAX.087-822-0043

https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/index.html

日時・内容については変更になる場合があります。最新情報は当館ホームページをご覧ください。



瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784

https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishu/index.html



香川県文化会館

〒760-0017 高松市番町1丁目10番39号
TEL.087-831-1806 FAX.087-831-1807

https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/bunkakaikan/kfvn.html

